昭六、二、九

大北會社電信料問題ト東京市佛貨債問題トノ關係ニ就テ

一、標記ノ兩問題ハ其性質並態樣ニ於テ多少ノ差異アリト雖モ其大部分ハ類似セリ　而シテ

イ、多少ノ差異アリト爲ス所以ハ大北會社電信料問題ハ電信料差額ノ支拂ニ關スル基本原則ニ就テハ萬國電信條約上金貨法ヲ以テスベキモノナルコトハ係爭兩國ニ於テ爭ハサル所ナルモ偶々貸越主管廳タル大北會社ガ丁抹國所屬ニシテ從ツテ貨幣ノ單位ヲ「法」ト爲サヽル爲同一條約ニヨリ與ヘラレタル權能ニ基キ帝國政府ト大北會社トハ其決濟方法ニ關シ特別ノ協定ヲ爲シタル所右協定實行ノ結果ガ條約上ノ基本原則ト同一效果ヲ齎ラサヾルニ至リタルトキニ於ケル特別協定ノ效力如何ノ問題ニシテ且相手方ニ損害ヲ生セシメタル原因ガ「圓」ノ下落ニ在ルニ對シ東京市佛貨債問題ハ東京市カ佛國ニ於テ發行シタル佛貨市債ガ證券面記載事項ノ文言體裁等ノ解釋上果シテ純然タル佛貨債ナリヤ或ハ本質上磅債ナリヤ換言スレバ該市債ノ元本及利子ヲ佛國內ニ於テ

大藏省

支拂フ場合ニ於テ紙幣法ヲ以テ支拂フベキヤ或ハ金貨法（精密ニ謂ヘハ金貨法ニ相當スル額ヲ支拂日ニ於ケル爲替相場ヲ以テ紙幣法ニ換算シタルモノヲ）ヲ以テ支拂フベキヤノ根本原則ノ問題ニシテ且相手方ニ損害ヲ生セシメタル原因ガ「法」ノ下落ニ在ルヲ以テナリ。

以上ハ主トシテ問題ノ性質上ノ差異ナルカ其態樣ノ上ニ於テモ大北會社ノ分ハ既ニ支拂ヲ爲シタルモノニツキ損失補償ノ要求ヲ提出シ以テ金貨法ヲ以テ支拂ヲ受ケタルト同樣ノ結果ヲ收メムトスルニ對シ東京市債ノ分ハ今後支拂ハレムトスルモノニ對シ金貨法ヲ以テ支拂ヲ受クルト同樣ノ效果ヲ來サシメムカ爲ニ債券其モノヽ本質論ヲ振翳シテ無理ナル言ヒ懸リヲ爲サムトシツヽアルノ差異アルヲ認メザルベカラス

尚大北會社ノ要求ハ條約ニ基ク協定ノ履行ニ關スルモノニシテ國際仲裁裁判所ニ出訴シ得ルモノナルモ帝國政府ニ於テハ必シモ應訴ノ義務ナキモノナリ然ルニ佛貨市債所持人ノ要求ハ佛國民商法上ノ債權ニシテ之ニ關スル訴訟ハ佛國民事裁判所又ハ商事裁判所ノ管轄ニ屬シ且東京市ハ應訴ノ義務アルモノト解セラル。

大藏省

三、二 富井納

ロ、然レトモ其大部分カ類似セリト爲ス所以ハ兩問題共

1 契約締結當時ニ於テハ當事者双方ガ金貨法ト同價値ノ貨幣ヲ授受スルノ意思ヲ以テ係爭ノ目的タル支拂方法ヲ協定シタルコト

2 其後ニ於テ事情ノ變化ヲ來シ當事者ノ一方ノ國ノ通貨ガ外國爲替相場上金貨法ニ比シ其價値ヲ減シタルガ爲債權者タル一方ニ損失（金貨法ヲ以テ支拂ヲ受クルニ比シ）ヲ生シタルコト

3 債務者タル支拂者側（帝國政府又ハ東京市）ハ契約ノ文言ニ從ヒタル方法ヲ以テ履行ヲ爲ス以上ハ相手方ニ前項ノ如キ損失ヲ生スルモ已ムヲ得サル所ニシテ該損失ニ對シテ補償ヲ爲スノ法律上ノ義務ノ全然存セサルコトヲ主張シツヽアルモノナルコト

4 右ニ對シ債權者側（大北會社又ハ佛貨市債所持人）ハ契約ノ文言カ金貨法ノ支拂ニ在ルコトヲ援用シ且正義公平ノ法則ノ優先的適用ヲ主張シテ金貨法ノ支拂ニ非リシ爲生シタル損失ノ補償又ハ金貨法ト略同價値ノ傍ノ支拂ヲ要求シツヽアルモノナルコト

ノ諸點ニ在リ。

大藏省

二、前項所述ノ如ク兩問題ニ相似點多シトスレハ之ニ對スル帝國政府ノ態度ハ成ルベク同一ナルヲ得策トスベシ然ルニ今日ニ至ル迄ノ經過ニ於テハ政府ハ

イ、大北會社問題ニツイテハ原則トシテ損失補償ノ法律上ノ義務ヲ否認スルモ而モ或程度迄正義公平ノ法則ヲ認メテ示談的ニ一定額ノ交付金ヲ爲シ以テ本問題ヲ解決セムトシ現ニ右交付金ニ關スル追加豫算ヲ求ルベキ第五十五議會ニ提出スルノ手續ヲ進行セシメツヽアリ然ルニ

ロ、佛貨市債問題ニツイテハ東京市ガ第一審ノ訴訟ニ敗レタルニ拘ハラス飽ク迄紙幣法支拂ノ正當ナルコトヲ主張セムトシテ現ニ控訴中ナルニ對シ政府モ亦之ト同一意見ヲ抱キ且本問題ノ他ニ及ボス影響ヲ重大ナリトシテ極力東京市ノ行動ヲ援助シ以テ其必勝ヲ期シツヽアリ

三、前項所述ノ經過ガ今後其儘進行スルモノトセハ大北會社交付金ニ關スル豫算ハ數旬內ニ通過シ其通過後ハ覺書ノ文言ニ從ヒ直チニ交付金ノ交付アルベキコトヲ豫想シ得ベク他方東京市ノ佛國ニ於ケル訴訟ハ其終結ヲ見ルガ爲ニハ同事件關係者ノ豫測ニ依ルモ今後尚一二年ヲ要スルモノヽ如キヲ以

テ茲ニ大北會社問題ノ先順位的解決ガ東京市債問題ニ及ボス影響ニツキ考慮スルノ必要ヲ生ス。而シテ此點ニツキ掛念スベキハ

イ、大北會社問題解決ノ内容カ佛國ノ原告側ニ知ラル、トキハ東京市債ノ認可者タル帝國政府ガ既ニ國際仲裁裁判ニ出訴セラレタル場合ニ於テモ應訴ノ義務ナキ案件ニ對シテスラ所謂正義公平ノ法則ヲ認容セルモノトシテ益々原告ノ主張ノ正當ナルコトヲ力説スルニ至ルコトナキカ

ロ、從ツテ佛國裁判所ノ判官等モ之ニヨリ益々原告ニ有利ナル心證ヲ懐クコトナキカ

ハ、同時ニ被告タル東京市及之ヲ援助シツヽアル在外政府代表者等ノ氣勢ヲ殺クカ如キコトナキカ

等ノ點ナリ。

四、以上ノ諸點ヲ勘案スルトキハ大北會社問題ノ處置ニツキ此際更ニ一考スルノ必要アリ　而シテ其處置方法ニツキテハ凡ソ四ヲ考ヘ得ベシ

第一ハ此際大北會社交付金ニ關スル追加豫算ノ提出ヲ見合ハセ本年冬ノ議會ニ四年度總豫算又ハ三年度追加豫算トシテ提出スルノ方法ナリ。此

大藏省

三、二 富井納

方法ハ外務省及大北會社ヲ納得セシムル點ニ於テハ多少ノ成算ナキニ非スト雖モ東京市債ニ關スル訴訟事件ガ此時期迄ニ解決スヘキヤ否ヤ頗ル疑問ニシテ寧ロ消極的ニ觀察スルヲ適當トスヘク然ルトキハ結局此際追加豫算ヲ提出スルト何等異ル所ナキニ至ルノ慮アリ

第二ハ今期議會ニ豫算ヲ提出セサルト共ニ議會終了後豫算外支出ノ方法ヲ以テ大北會社ニ支拂ヲ爲シ同時ニ會社ヲシテ本件解決ノコトニ關シテハ一切公表ヲ爲サシメサルノ方法ナリ本方法ハ政府ノ採ルヘキ手段トシテハ稍不公明ナルノ譏ヲ免レサルノミナラス後日議會ノ承認ヲ得ル際批難ヲ蒙ルノ惧レアリ（政府會社間ノ覺書ニハ豫算ノ提出及其通過ヲ條件ト爲シアリ）加之本件解決ノ事實カ結局市債訴訟事件終結前ニ暴露スルノ危險アリ

第三ハ大北會社ニ對スル政府ノ支拂（豫算提出ノ方法ニヨルカ豫算外支出ノ方法ニヨルカハ臨機取計フモノトシテ）ヲ市債訴訟事件終結ノ時迄延期スルノ方法ナリ、本方法ハ帝國政府ノ爲最モ安全ニシテ有利ナル方法ナリト雖モ大北會社カ果シテ此要求ヲ承諾スヘキヤ否ヤ

ハ頗ル疑問ニシテ從來ノ行懸リ上外務省ノ態度等ニ鑑ミレハ容易ニ榮轉ヲ許サズ

第四ハ現在通リ今期議會ニ追加豫算ヲ提出シ豫定ノ如ク會社ニ交付ヲ爲シ且大北會社問題ト市債問題トノ前掲相異點ヲ高調力說シテ兩者ハ全然其性質ヲ異ニシテ別個ノ問題トシテ取扱フノ方法ナリ本件ハ從前ノ豫定ヲ變更セサルノ利アリト雖モ前ニ說明シタル如キ兩問題ノ實質上ノ共通點ハ結局發見セラルヽニ至リ遂ニ累ヲ市債問題ニ及ホスノ疑念濃厚ナルモノアリ。

以上四種ノ方法ハ何レモ一得一失アリ最善ノ方法ト名クベキモノナシト雖モ差當リ大藏省ノ採ルベキ方針トシテハ第三ノ方法ヲ擇ビ之ヲ以テ外務遞信兩省ニ交渉スルヲ可トセムカ。